

普及情報

分類名〔病害虫〕

情 16

## 促成イチゴで発生するハダニ類の土着天敵

宮城県農業・園芸総合研究所

## 要約

促成イチゴ生産ほ場においては、ハダニ類の土着天敵であるハダニタマバエ及びハダニアザミウマが発生し、ハダニ類の密度抑制に寄与する。

## 1 取り上げた理由

促成イチゴにおいては天敵を活用した総合的病害虫防除（IPM）の普及が進んでおり、化学合成農薬の使用成分数及び散布回数の削減が進んでいる。特にハダニ類対策としては多くの生産圃場で市販のカブリダニ製剤（チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ）が導入されている。IPMのさらなる普及拡大には、生物農薬の有効利用以外にも土着天敵の保護・利用も重要な防除手段のひとつと考えられる。そこで、促成イチゴで発生する土着天敵のうち、ハダニ類を捕食する土着天敵の調査を行ったところ、ハダニタマバエ及びハダニアザミウマがハダニ類密度に与える影響とその発生時期が明らかとなったので普及情報とする。

## 2 普及情報

- (1) ハダニタマバエは厳寒期でもハダニ類寄生葉への定着が多数確認され、ハダニ類密度の抑制に寄与する。しかし、本虫は3月以降の気温上昇とともに減少する傾向にある（図1）。
- (2) ハダニアザミウマは3月中旬から散見され、ハダニ類密度の急増に呼応して増加し、ハダニ類密度抑制に大きく寄与する（図1）。



ハダニアザミウマ（成虫）



ハダニアザミウマ（幼虫）



ハダニタマバエ（幼虫）



ハダニタマバエ（蛹）

### 利活用の留意点

- (1) 農薬無使用の促成イチゴでの調査結果である。
- (2) ハダニタマバエの成熟幼虫は体長 1.5mm 程度でハダニ類が寄生した葉でよく観察される。幼虫はハダニ類の全ステージを捕食する。体は半透明のため、ハダニ類の摂食により内蔵が黒や赤に見える。
- (3) ハダニアザミウマの成虫は体長 1.0mm 程度でハダニ類が寄生した葉でよく観察される。幼虫と成虫がハダニ類の全ステージを捕食し、25℃では雌成虫は1日当り 30~40 卵を捕食する。
- (4) 両種とも殺虫剤は弱いことが推察されており、化学合成農薬を主体とした防除を行っているほ場では観察されない場合が多い。しかし、県内では天敵類を導入した IPM 体系の普及が進んでおり、そのようなほ場ではハダニ類が発生した場合にこれらの天敵も散見されることが多くなっている。

(問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話 022-383-8111)

## 4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 試験研究課題名及び研究期間  
農生態系内の生物多様性向上による総合的病害虫管理技術の開発（平成 29, 30 年度）
- (3) 参考データ

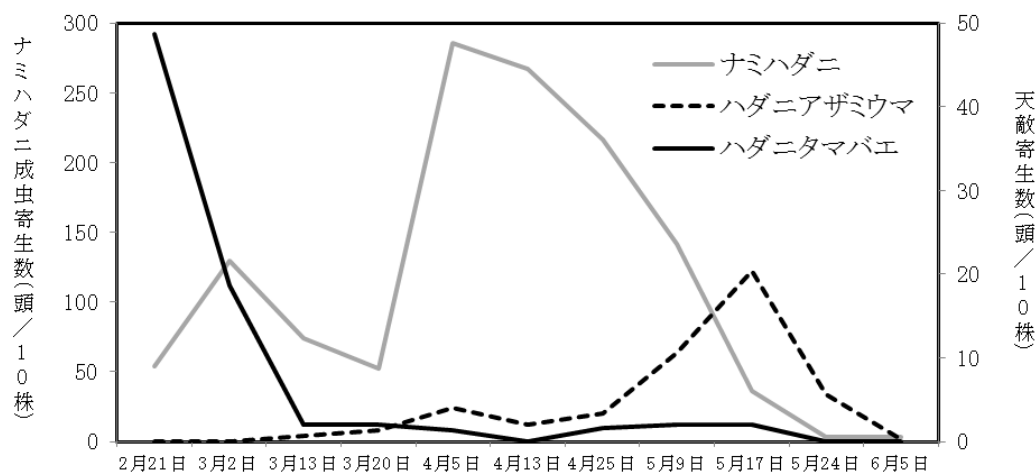


図1 ナミハダニと捕食性天敵2種の発生推移（農薬無散布ほ場，2018）

- (3) 発表論文等
  - イ 関連する普及に移す技術  
大規模施設における促成イチゴ栽培の IPM 体系（第 93 号普及技術）
  - ロ その他  
北日本病害虫研究会で発表予定
- (4) 共同研究機関  
(株) G R A